

相馬支局通信

▲原町校同窓會

相馬郡原町尋常小學校同窓會は九日午前六時半花火合圖に母校庭に集合し、昔を語りつゝ、濹佐濱海水浴場遊藝館に至り第三十二回同窓會を開催、余興に民謡、コード演奏、寶探し、其他の催あり、家内打揃ふてこの事、睦まじき様は會を有意義ならしむるに足る。

▲上眞野村で桑畑を廢す

相馬郡上眞野村にては二日村役場に村民集會を開き農村恢復の爲めに桑園を廢し麥畑になす事にしたと、果して何れかよきものやと一般から注視されてゐる。

▲相馬地方各濱

久しく降雨続きの爲め各濱海水浴場は旅館、貸間等更に浴客なく入り込みの商人など青息吐息であつたが、今頃の晴天に非常の出入を見、何れも大喜びである。

▲織物組合役員會

相馬郡、双葉郡の二郡織物同業組合では八日原町矢内金五郎氏宅に役員會を開き、今後の對策を協議する由。

平第一校 臨海學校通信

(八月四日) お家を離れての第一夜! さすがに少し淋しい氣持ちで夜更くるまで眠れず、しくしくすすり泣いてゐた友達もあつたやうだ。少しも家を離れば變つた氣持になるものだ。曉の夢を被つて集合の合圖、時正に午前五時。

時。朝霧の街を通つて海岸に出た。まだ去りやらの朝霧の海に大朱盆の如き太陽はギラギラとまはりながらシジミと東の海を昇つて行く。怒濤を壓して沓え渡る上川先生の號令に、元氣に満ちた體操が、打ち寄せる浪に立ち、海に面して行はれる。怒濤に負けぬ海國男兒の意氣を見よとばかりの呼稱は遠く太平洋にひびいて行く。められた大氣を深呼吸する清々しさ。體操を染つて歸つた僕等の朝飯はおかひりの請求で大賑ひを呈した。

「これで六バヤ目だ」
「僕はまだ四バヤ目だ」... 等々
物凄く會話がとび交ふ。
九時海浴。
今日は昨日とは打つて變つた天氣。思ふぞん分海水に浸た
る。朝霧の街を通つて海岸に出た。まだ去りやらの朝霧の海に大朱盆の如き太陽はギラギラとまはりながらシジミと東の海を昇つて行く。怒濤を壓して沓え渡る上川先生の號令に、元氣に満ちた體操が、打ち寄せる浪に立ち、海に面して行はれる。怒濤に負けぬ海國男兒の意氣を見よとばかりの呼稱は遠く太平洋にひびいて行く。められた大氣を深呼吸する清々しさ。體操を染つて歸つた僕等の朝飯はおかひりの請求で大賑ひを呈した。

銘品の景品付賣出

●景品 東京日本橋 白木屋 粧化粧石鹸
●期間 昭和五年十月卅一日迄
●一升瓶詰 (一、二、三、四) 一本毎に一個宛進呈
●空瓶は一本二十錢に御引受け致します
●販賣店 平町新川町 谷川口 商店
同 材木町 緑川商店
同 長橋町橋際 小野商店

平町以外各町村一店宛特約販賣の求めに應ず
發賣元 平町田町 永山酒店
電話二〇七番

三日のむだらピツタリこまる
新治 淋 劑
トリプチン
定價 三日分壹圓 七日分二圓 十一日分參圓
廿日分五圓 四十五日分拾圓
平町一丁目 電話六四二番
特約一販賣店 大平屋藥舖

カクニ石 御買上高

一、〇〇〇打ニ限
景品付大提供
御買上高
半打ニ
名人セルロイド
石鹼入一個
實用大型
洗面器一個
一ケ金拾錢
半打進物箱入
金六拾錢

年週七賣發 可認標商錄登
賣特念記
7月22日ヨリ8月10日迄 (20日間)

店商ヤルツ 十四百電 目丁四町平

氷水はイツモ氣持の

ヨイ... 藤寅へ

氷	八錢	氷あづき	十錢
水	八錢	同白玉	十錢
同いちご	八錢	同ラムネ	十錢
同れもん	八錢	同玉子水	十五錢
同ぶどう	八錢		

御注文は電話一四一番へ出前迅速
平町一丁目 藤寅

麻雀俱樂部開設

東洋趣味の粹として近代日本を壓倒してゐる麻雀の俱樂部が平町に生れました。支那の本場を思はしめる高雅な設備一切を整ひ三日早朝より開店し皆様の御出を御待ちしてゐます。麻雀を知らないは現代人の大なる恥であるとも云はれてゐる折柄是非御遊びにお出で下さるやうお願いいたします。

初めの方や御婦人方には丁寧な御教へ致します。

平驛前 (實川醫院裏)
平麻雀俱樂部

外科 光線科

上田外科醫院
電話一二九番

病室完備
平町南町

氷水

氷	八錢	氷あづき	十錢
水	八錢	同白玉	十錢
同いちご	八錢	同ラムネ	十錢
同れもん	八錢	同玉子水	十五錢
同ぶどう	八錢		

御注文は電話三〇五番へ出前迅速
平町字二丁目 藤市

安齊外科醫院

元赤心堂病院跡
電話四七五

皇漢 肋膜湯

定價一週間分貳圓
平町字四丁目
特約店 小野屋藥店
電話一四四番

外科 一般外科 内臓外科 性病科 X光線科

入院隨意 (自炊の便あり)
元赤心堂病院跡
安齊外科醫院
電話四七五